

飲食、夜も客足回復鈍く 午後8時以降 コロナ前の半分

の10月第5週比では5割減と来店者の水準はなお低い。他の時間帯も同様の傾向で全時間帯（午前11時～午後11時台）の25日から29日までの来店者数も前週より1割伸びたが、コロナ前の19年10月と比べると約3割減にとどまっている。

東京都豊島区の海鮮居酒屋は25日から午後9時以降の営業を再開したものの「コロナ前の稼ぎにはほど遠い」（40代店長）状況だ。夜間の人通りは9月よりも増えたものの、時短制限の解除で特に大衆店は深夜までの営業店舗が一気に増え、コロナ前より少ない客を多くの店舗が奪い合っている。

25日に東京や大阪で飲食店の時短制限が約1カ月ぶりに解除されたが、夜間帯の飲食店への客足の戻りは鈍い。

飲食店の予約管理サービスを提供するトレタ（東京・品川）が全国約4200店舗を対象にした

調査によると、25日から29日までの平日5日間の午後8時から午後11時台までの来店客数が前週比で2割増えた。緊急事態宣言解除前の9月第4週と比べると2・3倍で夜の街に人が戻りつつある。ただ、コロナ前の19年

消費者が夜間帯の飲食に慎重な背景には感染再拡大への懸念に加えて働き方の変化も影響している。緊急事態宣言の全面解除後も在宅勤務の併用を続ける企業が相次ぎ、出社しても自宅で食べる人は依然として多い。

世代・トレンド評論家の牛窪恵氏は「飲み会には参加しても1次会で切り上げるといったのが定番しつつある」と指摘。「ワクチン接種証明書の活用が進んでも深夜帯の客足回復は難しく、飲食店が閉店時間を早める動きは今後も進む」と話す。